

四
四
郷
談
三

13
196
3

13
196
3



水戸

大川

196
3

此夜は主人の恥辱へあづむるた炊婦を朽とせよ世の悪評
 歎むるの理りあり。某その夜の俱よまき経彼妖怪の為仲たふふ辨ト
 ぐさむとも口今むらうごらあふと彼如く竊せよへ愚案も賢慮と暗
 合せり。その内主人のこれらうのよう戒いまぐ曉りゆらせや。同ハ鮮夜涙と禁め
 いぬ比より彼妖怪と假鬼をいんとせうせうとせうとせうと宣む面りふ
 元ざりしものなる疑ひも起るるめ。その夜主役ハ人と磔は打ら緯の形勢
 山賊との西あるらんや。そのようになく疑ひく憚りの園然彼妖怪の
 虚実と標ぶ。金剛神の崇ハトは乃の罪状たるのさうして妻子といふ
 とと脱とがえん毛と吹死痲と求んより。荒居る怪我もせ。不意
 おん宣ふる。うけ引のめらるるまぶとてかてをいふがひる。
 とも後よ月日とて一く罪定る何れりくつが呀その恥辱と雪

江戸

へんごがあらん。新獲た所あり。とどろく。ふぶらふ。吉あはれ。大夫妻のゆゑ
 ちんせまうらふ。和殿如此。小謀れ。箇様。と耳澄。丁七頻。小
 今。よ。下。め。ね。賢。婦。人。楠。氏。も。及。む。ね。通。妙。計。け。め。り。ひ。ひ。ね。と。愉。く。遊。ひ。て。
 ちのびく。准。信。つ。次。の。日。の。暈。昏。小。貫。文。の。永。樂。積。を。布。袂。引。褰。こ。こ。成。脊。
 負。く。と。ひ。と。り。磯。山。へ。ぞ。赴。た。ぬ。却。説。飯。沼。丁。七。と。い。ご。う。月。ふ。あ。く。ら。と。て。
 通。宵。走。り。つ。稍。攀。登。る。松。の。山。涼。く。徹。く。いと。定。然。その。暁。は。金。剛。寺。乃。山。
 口。へ。あ。く。と。ん。び。や。り。ゆ。り。ゆ。り。と。荒。寺。の。金。鼓。の。終。く。松。の。風。本。来。空。と。観。
 堂。塔。伽。藍。の。蹟。の。と。迷。と。礎。の。外。一。物。も。く。只。一。體。の。金。剛。神。倒。と。り。
 山。門。の。梁。坂。肩。より。じ。て。蜘蛛。の。網。に。閉。ら。れ。つ。活。ら。び。と。く。立。る。現。
 司。馬。達。が。世。と。い。ひ。傳。と。故。あ。る。と。と。ひ。と。り。ご。と。と。立。在。ほ。か。山。の
 夾。白。く。曉。く。む。懸。ひ。も。あ。く。む。麓。も。く。う。つ。黄。昏。より。又。山。の。む。ら。と。山。の

ぼろろ。小。縣。の。目。睡。も。せ。ぐ。窺。ふ。怪。と。と。ふ。と。も。ほ。第。三。日。の。夜。小。至。り。て。
 身。長。巨。大。に。暴。男。酒。も。や。あ。く。ん。索。り。と。結。び。一。瓢。と。引。提。く。馬。歩。小。あ。や。
 ちの。屋。桶。危。き。山。門。の。田。垣。の中。小。坐。然。占。て。竹。の。皮。は。累。々。と。魚。肉。か。う。の。
 扱。酒。菜。は。頭。致。敲。れ。舌。打。鳴。じ。瓢。の。酒。致。喫。竭。く。そ。ぐ。ま。く。小。砂。う。あ。や。
 野。声。幽。る。り。丁。七。の。月。光。も。と。と。あ。か。う。さ。る。透。く。ん。と。彼。癡。者。の。こ。こ。る。ん。と。
 う。ら。点。既。つ。樹。間。と。出。足。音。た。く。金。剛。神。の。田。垣。の。ほ。より。小。曉。と。言。あり。
 立。く。や。う。の。ぞ。う。奇。妙。項。礼。金。剛。神。の。室。前。は。祈。願。も。も。某。年。未。相。摸。を。
 の。と。四。十。八。の。大。抵。志。と。も。その。力。足。ら。ざ。り。最。小。抜。ひ。あ。る。と。と。
 稱。り。尊。神。の。冥。助。より。つ。く。養。力。十。倍。る。と。ち。ち。ち。ち。田。園。致。活。却。と。と。
 山。門。の。昔。更。く。風。雨。と。御。免。な。り。ん。の。願。を。成。す。と。う。さん。と。と。夜。と。と。あ。て。と。
 結。せ。り。ま。づ。復。我。の。ま。る。と。う。一。貫。文。献。大。願。成。就。る。と。う。め。大。崎。の。里。人

某再拜と敬白と云うはつ祈りして綿もろふ十緒の袂と井垣の内(礎)と授へと
又救回願ふ志を云うと起しと塵うち拂ひ麓へさるなりして舊井樹蔭よ
立隠と緯のちうひ窺へハ彼癡者の起るはりく件の袂と右の引きまは日ハ
魔がうろくく。出ま取らと一端の菌清沙一丈る死する。又この如へ
巢然易くとびひがけかく白徒が十緒の本袂をりて暮ふ。実果報ハ
寝く初うひあり。又吉夢然るる。とむらうごらううち笑ひ法を枕と
又外七十七の緯の執十分よえ定らう。只近づくと癡者以捕捕をとせむが
渠ハ笑の大方る。早うくまはるそんむらと奥がの宜ハせらる。あ
るべし。とひくへく。渠がそる候不ぞよ。や曉がふなりしと癡者の
欠伸く。田垣の顔と瓜潜り出垂柳のてく尿く。石湯と掬ひ嗽死件の法と
肩小乗て麓のくえ下はらん丁七の失ハと些後れくや。復羊腸
るる山道の木立降る死如く。忽地往方を失むら。このふと地まどひく。
わけともく。遂はぬあり。あふく。とらう。頻は臍と噛むりのら。
奥がの謀じめひく。既織と齎く。索あらざる。とあふ。とわらど
白月やまらむ。果敢る。も山をく。彼此徘徊。あるともあふ。と知
塚る。小松原とらう。野ざらとわら。悪棍夥圓居ら。目文の勝
肩矢争ひ。その中。試と顔と包く。隻膝立。大漢が。死並。法と
とま。永樂通宝。背以磨ぬ。後く。原未昨夜の癡者の。這奴
る。とひく。足む。何如。近き。推津の城。や
ゆん未里。と。と決。前向。正未。正時。細。彼。奴
空才。兵士。引。率。毎。日。の。巡。歴。懈。ら。この。日。の。と。承。ら。ん。と。承。ら。ん。
知塚。ち。く。丁。七。の。馬。前。の。泥。と。ま。継。標。素。太。夫。が。私。率。小。飯。沼

疊六
血戦して
かまひ
脱る



ぢやう六

よ不七

丁七と鳴るりのいと憚るる不似と正永どのとらんをさそやあや
 づらるのそい主あそい素大夫の妖怪は不足致とりて暫代宝刀を失ひしめん
 外はよりりくろり居つろくお奴業むる不彼妖怪の爲体正了神あま
 あまふまむのりその真偽致あるよりあつろく名致雪むるりやと寝食致
 忘とつ計策致定められど暫居のち致りてそのろかろつろどよりて其
 是とろけろり承樂法一貫文その背と皆とり磨死破山寺の三夜籠りて
 箇様と謀りしむ彼荒寺外房ととる癖者ありと強て取りぬかて
 ろの曉の癖者の跡と跟り麓へくんとする行は忽地往方と失ひつ心地
 わらひく彼此と索て知塚成る折野おせりの悪棍ホが圓坐せしそ中ホ
 背と磨死し鉄駝りてる大漢のいひたこ疑ふづろとあつろく金剛神お打拾
 人死掠奪山豪るると告ると時綱おめんど素大夫微妙謀りふたり先

夜の恥辱残雪んと只この二拳又あらんふは汝が忠義も抜羣え時々しと
 つまふと。三十餘人の夥兵と五人十人部り丁七又御導させ彼を扱ホカ
 圓居せ。小松原を八方より。牛牯ととり巻く。時綱るがく馬を乗させ羣者
 走らむや御徒より。汝を捕らる小正未弾正みづらむら。彼生拘れ
 と下知さるぬぞ早雄の兵は御徒さふと鳴り。暮地は勢で鬼れは悪黨
 駭き駭き立足もる。避易し。逃んとさる。汝追詰く。二三人搦捕ぬ。その
 隙より丁七五六人の夥兵と小彼大漢が前後より。打倒さんと聞り。彼大
 漢は別人る。則ち目の。六之。勢を敵も小抱ともせ。近づく。め。我
 後へ投組んとさる。我前へ探伏縦横。身是。哮り。ねふ。その好。京。餓。猛。虎。
 羊と驅傷へ。野猪の。勢。力。ひ。當り。ぐ。三十餘人。乃。兵。小。
 見。首。小。聚り。彼。処。へ。散。せん。樹。も。る。く。え。え。く。時。綱。頻。く。ふ。焦。燥。て。短。槍。を

と移り。馬は拍り。奮。若。く。突。て。鬼。れ。疊。六。倍。と。さ。り。て。小。籠。ま。て
 カ。の。正。未。が。武。藝。小。敵。せん。と。危。し。と。ひ。ん。推。り。巻。く。正。未。
 左右。靡。け。前。後。圍。う。と。一。條。の。路。を。奪。ふ。と。お。か。が。て。く。小。走。去。り。時
 綱。へ。逃。れ。と。短。槍。を。雌。も。小。挾。む。鞭。を。揚。ぐ。追。蒐。れ。ば。丁。七。六。西。三。人。の。夥。兵。と
 とも。小。馬。は。先。が。ら。小。松。原。を。東。へ。投。ぐ。喘。追。不。得。と。疊。六。も。道。足。を。や。く。
 七。八。町。走。り。つ。忽。地。途。を。横。ぎ。り。て。檜。林。の。ほ。ろ。り。る。鎮。守。の。社。の。蔭。を。た。け。
 縛。と。脱。る。糊。襟。の。と。く。只。一。跳。は。登。り。吐。嗟。を。ぐ。一。個。の。兵。引。捕。へ。と。て
 閃。り。と。登。れ。ば。鬼。且。六。の。織。月。形。の。刀。と。見。り。と。撞。く。を。説。く。と。と。と。と。と。と
 飲。落。ある。の。庇。へ。う。ち。越。く。林。の。中。へ。飛。り。ぬ。その。と。飲。落。下。り。研
 祠。の。屋。棟。は。ひ。ひ。登。り。つ。彼。癡。者。小。推。は。ぬ。と。そ。か。ま。檣。と。下。り。下。り。と。と
 撲。や。り。く。文。は。追。不。得。勢。を。く。彼。ゆ。と。叫。ぶ。時。綱。へ。夥。兵。を。進。め。く。

索ね宝刀と返すもせぬや。とさういふる義亮はくちちと
 豫てよりこのるが。あつせんといふの。さうを呀予が意に請ふ
 限り小素大夫が執居免れぬとまへ。あつるとも賞罰正さ
 道はよろしく終る。聖なるものさうせん執暫代へ細碎の青
 又の易。但鐵月形の二刀の。十五城さうく代んといふと許
 るる小不覺よことぬ奪れぬ。素大夫が罪輕うとむ。さう
 一旦その陸弱と懲えん渠の志を傲く。八方へ編歴。件の賊
 形然と復し。さうあるとわらふその本領と返す。さう
 渠今妻子と推乃。遠は旅行は赴左よ右よ不佞あり。老
 葛節郡真間の里継橋の別荘へ素大夫が妻の又梁右の職
 出ぬるればと。私の資財なり。十餘年前これを購め先皇の側

豫て隠の地と占く。家作をせしめ。さういふる。さういふる
 所領は収の限りふあつと。因てその妻と女見と彼別荘よと
 大夫が保。保質これよ。さういふる。さういふる。さういふる
 びひいさ。又彼墨太。三ホ十餘人の悪棍。その罪を六小異
 なる。さういふる。さういふる。さういふる。さういふる
 執達せよう。と嚴重に仰る。定人。世の栄枯。失火の
 きの。房。の壁。臣。さういふる。さういふる。さういふる
 罪。藉。既。定。く。僅。妻。子。と。推。乃。真。間。の。別。荘。へ。赴。く。や。ど。ふ。聖。亮。の。目。代
 苗。項。等。親。した。友。の。る。た。ふ。あ。つ。後。ど。さ。る。守。は。憚。り。て。か。る。時。の。憑。り。さ。う
 奴。隸。小。所。な。と。途。二。里。を。送。り。さ。う。いふる。さう。いふる。さう。いふる
 七。の。志。を。た。ら。す。ま。い。ら。せ。り。七。の。主。の。女。倉。楓。成。眷。員。ひ。鮮。衣。と。被。服。を。五。人

来里と追れく。下後を赴たぬ。され守のあし仁慈有がた。心辱く。件ハ
 宝刀成とう復し。ゆりあるてあつ。舊のどく。百使んとて妻子と来地。又臣
 ちと。月俸るど。賜れ。素大夫へ今又。感涙と禁あ。ど。ちる。宿ら。ひ
 う。途遠けれ。妻や子。その名。ま。真間の里の別荘。ま。これ。先人
 継格。梁右。致仕。せ。との。閑居。ふ。と。七回。四面の家。造り。て。茅屋。の。客
 房。あり。書院。あり。便室。あり。坪の。秋菊。園の。松柏。鄙。あ。の。れ。と。ん。と。ろ。ろ。多。く。第。ふ
 鄰。う。大刹。へ。則。真間の。弘法。寺。真間の。紅葉。の。子。見。名の。神社。の。寺。の。墳。内。の。の。
 継格。氏。の。先祖。の。墓。も。この。処。に。あ。る。と。い。ふ。子。見。名の。墳。墓。へ。由。来。久。し。
 山部。宿。祿。赤。人。の。五。も。ん。つ。人。や。と。告。ん。勝。牡。鹿。の。向。の。子。見。名。の。奥。津
 城。に。勝。牡。鹿。の。真。の。入。江。よ。う。ら。靡。き。玉。藻。刈。の。子。見。名。の。な。り。も。
 と。縁。に。入。載。く。万。名。集。第。三。に。あ。り。又。高。檜。連。虫。麻。呂。が。勝。牡。鹿。の。真。の。



素大夫
 あり衣
 逆旅中

素大夫

あり衣

うへで

素大夫

間の井に入らば立ち上りし水次拖きん見名しかりや。と流しにあり下集の
 春の九ふんええう。又その間の入江継格ハ新勅撰集風雅集及代々の撰集ハ
 澄歌敷んええう。或枚奉んかうゆさうべ。さて被飯沼丁七ハ継格ハ由緒
 あるのみ。その本貫も下流の真間なる。渠ハ年十四五の比上流の兼里へ
 赴く。鮮衣又継格梁右馬の二は。一旦身の暇とてこゝ故郷へくる妻と
 娶て母の子ひとり孫奉つ。後もと名づけたり。かゝる女児が四才ある比
 婦妻をまろしうぶ。これよりうづは便なして。稚女見と城塚山のあるこ
 圃府其の近村なる。二妻の妹は托く。再び兼里へ赴く。亦継格ハ土土り。
 さて彼女の子後多ハ年ハ楓ハ五ツの幼みて。今茲ハ年十二ふかりぬ。丁七も
 主家の親ハ志次移さば。真成ハ仕るのうら。坊人とも久橋居時。由
 秋の季るとは彼ハ就てはつ。心裏もなれば。或慰る。圃府其の近村より。

酒多の瓜石より。鮮衣楓ハ。腰のく使せ。楓ハ。不向人。或獲く。後も
 做ぬ宿る。懶とる。く。素大夫ハ。稍ころ。安堵く。万里ハ。逆旅ハ
 赴く。も。彼置六を。搦捕く。織月形。或。復さ。生く。家。或。ゆ。じ。と。
 ロ。あ。り。と。起。行。の。准。由。も。せ。ざ。り。鮮衣。丁七。ハ。も。て。有。一。日。首。途。の。催。促。
 して。や。ど。か。く。在。ま。ぎ。研。領。ハ。没。収。せ。り。て。も。守。不。出。ち。ろ。と。り。ま。う。と。
 久。後。の。こ。も。入。は。け。う。び。ゆ。え。の。み。と。名。因。み。こ。の。此。ハ。月。是。過。し。の。み。と。
 久。妻。子。の。の。鮮。衣。と。せ。く。忠。次。等。く。義。と。杖。す。て。旅。より。旅。又。美。次。等。に。
 賊。と。稱。宝。刀。と。取。り。ぬ。り。義。と。杖。す。て。旅。より。旅。又。美。次。等。に。
 久。侯。翌。より。夜。の。目。も。や。合。さ。ん。妻。子。の。の。鮮。衣。と。め。んと。思。ひ。ゆ。り。と。と。
 俱。く。旅。行。ハ。赴。た。多。入。途。ハ。憑。か。ず。と。の。く。又。丁。七。の。現。奥。ぶ。の。官。人。と。く。
 于。瓜。枕。も。若。不。寢。宿。志。次。果。し。の。い。び。び。この。家。或。續。の。ひ。く。先。祖。へ。と。ふ。義。

主君不忠と云ふやうにやとてゆりぞき某曩は撲傷り膝の疵愈ふとも
 彼身六が骨相破れとて一の夜陰のし又知塚で一とては這奴の拭りて類を
 包ぬくく捕の兵士破抜く走りてたかや曠昏よかりし定ふ徳め
 ひらひと骨逞く脂づたて。声音の銅羅とてさふ似たり。おの役もたまた
 苗さあは流ももゆへ某か得つるうらへん。ちがう鎌倉へや赴ける小奥の
 うさや赴ける人と此彼齊く激せば素大夫の報せと慚く忽地貌と改めら
 地の所要果とれば聖明後の比起ゆえんと。これをもとひ決りふことそのは
 いちがひ生ごうれとてこのも丁七と俱しくゆえり却便は且その成つふと
 盤纏えいれ浪人の果しる長旅は従者ありて費ヨリ。これその益
 一らり。又丁七八宝刀の械と定ふ認ざるふありとや。これ益の二之綴丁
 七彼身六が相貌とてとるも。世餘人の捕の武士或骨ともせはば癖者

これ小一個の従者ありとて力とて勝つるこは則益の三之れゆ六を
 志とてといふとを鐵月形に織りて。その賊と索する有勢よみがるるは
 あらむ。生兵法は怪我の基え力足らばとて。これよはるは。これよはるは。これよはるは。
 うけふ丁七八角と。鮮衣お以慰め。とてとて。これよはるは。これよはるは。これよはるは。
 とあつる白く回答つ。清きとて。俱許さび。十早振神。とてとて。雲より
 分りあふといふ十月の晦。特は吉日るれば。とて。日と首途と定め。小なれば。鮮
 衣のかび。良人が行の装束。夏冬の衣裳。さへ。甲脚絆。笠の切。とて。
 整つ。その時。よる。苗別の土器。殺。仇。勝栗。打。鮑。春。とて。
 かる。び。え。つ。つ。小松河の青菘。あ。せ。良人の。祝。とて。
 素より。博。平。の。賢。妻。只。その。良。人。を。激。し。功。成。名。遂。人。と。公。の。と。和。と。つ。ふ。
 誠。ひ。り。て。涙。一。滴。落。さ。ね。と。今。ぞ。こ。ら。と。ふ。る。り。ぬ。と。あ。へ。名。お。惜。さ。一。下。は。ひ。て。

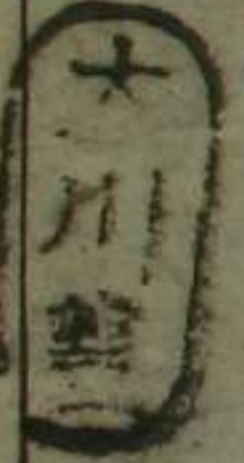
泣ぬ歎たるはなほほり。死曾小瘠のやうなるは。文見親親又まゝ。竹の節
 こけてまれば。赫変姫ともんぶらうけり。漂致の愛されのまゝ。幼稚を
 とも孝むまゝ。かゝる時ゆと大人。やうふ又上行。妙契たぬ旅まゝ。人成俟むら。
 悲しみのへあじう。ときのみ母への宣ひ。けのふゆいど。あらんば。えひり
 る。あひゆり。そやゆ。せまじ。としひ。酸鼻む子ら。又へ。よ。え。母親か。死
 子や。引。よ。せて。二度。濡。れ。袖。の。雨。晴。間。は。絶。た。な。れ。の。り。素。大。夫。を。修。初
 る。が。ら。八。年。結。び。妹。使。の。縁。を。終。と。と。る。妻。小。別。と。女。見。を。留。め。て。出。て。あ。り
 淳。子。髪。が。残。守。送。下。れ。浦。島。の。子。が。逢。来。以。去。と。せ。と。か。や。と。ま。て。汲。ど
 拭。へ。と。涙。の。泉。は。る。が。じ。と。く。竭。ぬ。哀。別。離。苦。彼。由。何。う。此。も。又。死。う。る。が。た。ら。う。と。て
 慰。後。一。丁。七。の。ろ。と。も。小。抄。お。小。波。も。吹。り。立。と。と。笠。よ。杖。よ。と。つ。も。せ。び。の。り
 ら。れ。は。激。され。草。鞋。の。初。と。引。結。び。異。る。く。と。ら。せ。よ。恙。る。帰。り。多。と。又。子。夫。婦。が
 一。句。又。契。の。辞。別。鼻。う。ち。は。紙。と。も。お。お。ひ。捨。て。と。る。海。漂。と。も。社。女。が。て。り。ま。ち
 多。か。と。飯。沼。丁。七。の。日。あ。り。成。送。う。ら。せ。め。今。宵。の。宿。り。ま。ど。と。て。や
 三四里も身ふくま。素大夫を。と。と。林。林。め。隅。田。川。の。ほ。ろ。う。と。り。丁。七。を
 返。し。う。ま。て。何。方。と。投。て。や。ゆ。と。雲。時。埜。の。晴。踏。く。ひ。ら。り。ほ。ぐ。と。と。あ。わ。り。が
 又。ハ。明。人。の。く。と。と。ら。姓。名。成。朱。高。と。し。妻。も。あ。り。子。も。あ。り。ま。が。い。つ。る。故。小。や
 これ。成。捨。て。の。大。日。本。へ。ま。う。つ。と。名。成。素。郷。と。改。め。と。華。洛。小。の。り。室。町。殿。小
 眠。近。又。又。妻。と。娶。り。と。吾。情。を。奉。ゆ。い。え。か。と。又。故。あ。り。と。明。朝。使。を。彼
 困。又。白。く。妻。を。索。一。子。は。名。告。あ。ひ。その。り。忽。地。復。え。と。親。子。の。其。墓。石。も。罪
 ら。れ。多。い。と。と。又。日。本。と。明。國。の。二。人。の。妻。あ。り。二。人。の。子。あ。り。そ。れ。在。小。と。と。別。の
 涙。は。袖。の。乾。く。隙。を。罪。人。の。さ。さ。り。あ。ひ。た。これ。の。業。因。る。は。滅。せ。び。や。と。い。ふ。も
 又。二。人。の。妻。あ。り。子。ハ。三。人。ま。あ。り。る。が。離。別。の。哀。と。泣。つ。落。る。前。妻。比。塚。而。仙。の

泣ぬ歎たるはなほほり。死曾小瘠のやうなるは。文見親親又まゝ。竹の節
 こけてまれば。赫変姫ともんぶらうけり。漂致の愛されのまゝ。幼稚を
 とも孝むまゝ。かゝる時ゆと大人。やうふ又上行。妙契たぬ旅まゝ。人成俟むら。
 悲しみのへあじう。ときのみ母への宣ひ。けのふゆいど。あらんば。えひり
 る。あひゆり。そやゆ。せまじ。としひ。酸鼻む子ら。又へ。よ。え。母親か。死
 子や。引。よ。せて。二度。濡。れ。袖。の。雨。晴。間。は。絶。た。な。れ。の。り。素。大。夫。を。修。初
 る。が。ら。八。年。結。び。妹。使。の。縁。を。終。と。と。る。妻。小。別。と。女。見。を。留。め。て。出。て。あ。り
 淳。子。髪。が。残。守。送。下。れ。浦。島。の。子。が。逢。来。以。去。と。せ。と。か。や。と。ま。て。汲。ど
 拭。へ。と。涙。の。泉。は。る。が。じ。と。く。竭。ぬ。哀。別。離。苦。彼。由。何。う。此。も。又。死。う。る。が。た。ら。う。と。て
 慰。後。一。丁。七。の。ろ。と。も。小。抄。お。小。波。も。吹。り。立。と。と。笠。よ。杖。よ。と。つ。も。せ。び。の。り
 ら。れ。は。激。され。草。鞋。の。初。と。引。結。び。異。る。く。と。ら。せ。よ。恙。る。帰。り。多。と。又。子。夫。婦。が
 一。句。又。契。の。辞。別。鼻。う。ち。は。紙。と。も。お。お。ひ。捨。て。と。る。海。漂。と。も。社。女。が。て。り。ま。ち
 多。か。と。飯。沼。丁。七。の。日。あ。り。成。送。う。ら。せ。め。今。宵。の。宿。り。ま。ど。と。て。や
 三四里も身ふくま。素大夫を。と。と。林。林。め。隅。田。川。の。ほ。ろ。う。と。り。丁。七。を
 返。し。う。ま。て。何。方。と。投。て。や。ゆ。と。雲。時。埜。の。晴。踏。く。ひ。ら。り。ほ。ぐ。と。と。あ。わ。り。が
 又。ハ。明。人。の。く。と。と。ら。姓。名。成。朱。高。と。し。妻。も。あ。り。子。も。あ。り。ま。が。い。つ。る。故。小。や
 これ。成。捨。て。の。大。日。本。へ。ま。う。つ。と。名。成。素。郷。と。改。め。と。華。洛。小。の。り。室。町。殿。小
 眠。近。又。又。妻。と。娶。り。と。吾。情。を。奉。ゆ。い。え。か。と。又。故。あ。り。と。明。朝。使。を。彼
 困。又。白。く。妻。を。索。一。子。は。名。告。あ。ひ。その。り。忽。地。復。え。と。親。子。の。其。墓。石。も。罪
 ら。れ。多。い。と。と。又。日。本。と。明。國。の。二。人。の。妻。あ。り。二。人。の。子。あ。り。そ。れ。在。小。と。と。別。の
 涙。は。袖。の。乾。く。隙。を。罪。人。の。さ。さ。り。あ。ひ。た。これ。の。業。因。る。は。滅。せ。び。や。と。い。ふ。も
 又。二。人。の。妻。あ。り。子。ハ。三。人。ま。あ。り。る。が。離。別。の。哀。と。泣。つ。落。る。前。妻。比。塚。而。仙。の

女貞の存亡今も定らざるを。これ不慮過失とて又後妻とこれ産せし女也。小
 別れも果しつゝは逆旅よりひとり呻吟と過世のつらき悪報やんか。まご命運を
 面談認めぬ強敵の層六を撃果しく。越月形の一刃とて復んをばつるを
 相統しる。継持成りて過失より影後せぬ不義と憎も不忠致登りて自天いつて
 祐のりん只命運と天よりけり。神仏は誠と告。下をむら月形の宝刀の所在を
 穿鑿し。縛の便宜小上野より。越の刈り殺れり。片塊唐草紅血ホグ。往方と素ね
 生死と向ふこれ神明佛陀の冥助と憑をむらり外は御巨と腹裡小尋思り。一
 軀て上野赴くは途ふ神社佛岡あれ。るるるる。宿願成初念さるる。小十社
 千院は満せんとて紙と前か。姓も成字。宿る神社佛岡毎は件の名簿を貼つと
 いとの。継橋素大夫と書顯さんへささるる。里うん家憚あれ。酒舊のを懸子と
 唐洞素二郎宗郷再特敬白とて書りりける。かゝるその年以上野は暮るる。次の

手は下野より。信濃越後編歴さるる。越月形は似たりとや。大刀とてふるふと
 る。前妻片塊女貞唐草紅血ホグ。生死存亡もさるる。又いづら。小暮し
 つ。明日天文十年弥生の比。又上野まをゆる。程よ。去々年上総の橋本也。熊二
 王は投てと。撲傷俄頃小再發し。歩行難美小及び。さるる。安
 うらむ。湯治せ速小愈さるる。あは。とて四月の上院は上野。草津の温泉は赴
 き。こ。豆置さる。程よ。ひとり。杖をよるも。ほむ。素大夫固より。其後好む。只
 管友と求めり。其名を圃とて。日と暮暮さる。ひとり。其敵とて。さるる。その入
 身丈高く。し。黒く。肥脂つたれ。が。病者の為。作は。似。これ。のひ
 ぶ。殊。又。慇懃。めて。悪心。あ。ぶ。三人。と。ん。え。と。其。名。極。上。の。上。の。これ
 是。い。ろ。の。張。数。既。満。は。卷。を。易。て。これ。の。亦。復。記。と。ん。え。

四四 御言卷之三 終



好文堂

○著作堂編述出像國字小説略目次 群玉堂藏版

三勝半七節操全傳南柯夢 前編分卷七冊 後編同 五冊

筒井順照補と切とにめくく木精の怪より半七三勝の音縁と説古今人情の意と比く〜哀まふあり〜るれ物語をり

墨田川梅柳新書 全六冊

梅若松若の支跡と種〜とれども名ふる作者の新書少く岸の柳と梅が香と〜る筆の綾錦文章清き偶田川の景色も〜る物語

勸善常世物語 全五冊

最明寺殿雪の段と昔〜と種々面白き趣向のよ〜る本をり

雲妙間雨夜月 全六冊

鳴神上人の物語の〜も孝子の傳と知〜至〜るあり〜る〜

標注そのゆゑ 全五冊

園部左工門薄雪姫の支跡と面白く哀よ〜る〜る本をり

